



内政

1. 前ボツワナ銀行総裁，SPEDU調整官に任命

カーマ大統領はモホトロ前ボツワナ銀行総裁をセレビ・ピクウェ経済再活性化・回復プログラム（SPEDU）の調整官に任命した。同人事は、モホトロ氏の経済・金融業界における広範な経験を鑑み決定された。同氏は、今後、投資通商産業省に席を置き任務に従事する。

（4日：デイリー・ニュース紙）

2. 元ボツワナ銀行副総裁がパークレー銀行非常勤取締役に就任

モツイディシ元ボツワナ銀行副総裁がパークレー銀行非常勤取締役に就任した。同氏は、これまで金融・組織運営などで優れた手腕を発揮し、次期総裁候補と目されていたが、2016年1月に、15年間勤めたボツワナ銀行副総裁の職を退いていた。

（6日：サンデースタンダード紙）

3. トロクウェン地区選出国會議員が死去

27日、バトバカエ国會議員が自宅で遺体となって発見された。駆けつけた警察によれば、遺体に不審な点は見られなかったという。同議員は、過去、野党ボツワナ国民戦線党（BNF）で重責を担い、2014年総選挙では野党連合「民主改革のためのアンブレラ」（UDC）から出馬し当選を果たしていた。また野党で唯一の女性議員であった。（30日：デイリー・ニュース紙）

外交

1. カーマ大統領がBNCでズマ大統領と対談

カーマ大統領は、11日より行われる南アとの第三回二国間協議委員会（BNC）に出席のため、7名の閣僚と共に南アを訪問する。BNCは二国間ハイレベル対話のプラットフォームとして、政治、経済、安全保障等について協議するため、2012年8月に設立された。

（10日：メヒ紙）

2. ボツワナ、温室効果ガスを削減

16日、カーマ大統領はモロッコで行われた国連気候変動枠組み条約第22回締約国会議（COP22）に出席し、2030年までに温室効果ガスの排出を15%削減すると約束した。同大統領は、ボツワナは再生可能エネルギーの活用やエネルギーの効率化によりボツワナが提出したINDC（約束草案）の内容を実現すると述べると共に、ボツワナの気候変動対策は農業・水・保健など未だ脆弱な分野に集中しており、緑の気候基金（GCF）や地球環境ファシリティ（GEF）による支援が必要だと強調した。

（18日：デイリー・ニュース紙）

3. マシシ副大統領、日本より勲章を受章

17日、マシシ副大統領に対する旭日大勲章の伝達式が日本大使公邸で行われた。同勲章は、同副大統領が日本・ボツワナ間の

関係強化に寄与したことに対して授与された。同副大統領は、日本のボツワナ発展に向けた貢献に感謝し、1966年の外交関係樹立以来維持する友好関係を強調した。これに対し、尾西大使は、同副大統領の勲章受章は両国の50年に亘る友好の証だと述べた。

(21日：デイリー・ニュース紙)

4. ボツワナ、国連持続可能な開発枠組みに署名

23日、マタンボ財務経済開発大臣とピダーソン国連常駐代表との間で署名式が行われ、「国連持続可能な開発枠組み(UNSD F)」の実施が約束された。同枠組により、国連は2017年から2021年までボツワナの開発計画を支援する。同枠組みは、開発の優先課題として、強靱な社会の構築、ボトルネックの解消、統計情報の質向上を掲げている。

(25日：ガーディアン紙、デイリー・ニュース紙)

5. 天皇誕生日祝賀レセプションの開催

24日、天皇誕生日祝賀レセプションが日本大使公邸にて開催された。尾西大使は、スピーチの中で、ボツワナは日本と基本的価値観を共有する重要なパートナーだと述べた。これに対し、ボツワナ政府代表のモラレ外務国際協力大臣代行は、日本人の勤勉さと日本の国際社会における持続可能な開発、平和と安定に向けた取り組みを賞賛すると述べた。

(28日：デイリー・ニュース紙、ガーディアン紙)

6. フランス大使の信任状捧呈

カーマ大統領はヴァレリー仏大使から信任状を受け取った。仏ボツワナ外交関係は1967年に樹立され、仏大使館は2001年に開設された。仏大使は、オランダ仏大統領から託されたカーマ大統領の仏訪問(当館注：2017年11月)に対する謝意を伝達した上で、経済多角化、自然遺産保護、再生可能エネルギー、水などの分野での支援を約束した。

(30日：デイリー・ニュース紙)

経済

1. 経済指標

1) ボツワナの主要経済指数

・経済成長率

2016年第2四半期の経済成長率は、前期比マイナス1.3%(同年第1四半期の経済成長率は、前期比1.6%(修正済み))。

・インフレ率

2016年10月は2.7%(同年9月は2.8%)。

・為替レート(FNB)

2016年11月30日

1プラ=0.091米ドル

1プラ=1.253南ア・ランド

1プラ=10.31円

2016年10月31日

1プラ=0.092米ドル

1プラ=1.254南ア・ランド

1プラ=9.752円

2. ダイヤモンド産業

1) Shrenuj 社の営業停止

ダイヤモンド研磨及び装飾品販売の印・Shrenuj 社が、ボツワナでの営業を停止することがわかった。同社は、ボツワナにおいて約300名を雇用する当地最大手のダイヤモンド関係企業の一つである。関係者によると、営業停止の主な原因は、同社の印本社の4億5千万米ドルに及ぶ債務不履行を受けてのデビアス社によるダイヤモンド原石割り当ての停止と言われている。

(18日：メヒ紙)

2) カット8, 2017年より始動

デブスワナ社が経営するジュワネン鉱山において、カット8(当館注：第8次拡張事業)からのダイヤモンド採掘が2017年より始動予定である。同鉱山の拡張事業を担当しているMajwe社の報告によると、カット6及び7の資源はほぼ枯渇しており、2017年からカット8を始動させることで鉱山の寿命を2024年まで延長することが可能となる。カット8からは、1億カラットのダイヤモンド原石が採掘されることが見込まれる。さらに、デブスワナ社は、2014～2032年に稼働させることを念頭にカット9の計画も進めている。

(30日：メヒ紙)

3. エネルギー・資源

1) ボツワナ電力公社に新CEO就任

1日付けで、ボツワナ電力公社(BPC)の新CEOにシュワルツフィッシャー氏(ドイツ人)が就任した。シュワルツフィッシャー氏は、KPMGの鑑査機関等での勤務経験があり、組織の構造改革の専門家

である。この度も、CEOとして様々な課題を抱えるBPCを根本から改革していくことが期待されている。

(2日：メヒ紙, パトリオット紙)

2) モルプレB発電所売却のため政府は中国企業を選択

政府は、モルプレB発電所(1～4号機)をChina Machinery Engineering Corporation(CMEC)に売却するための交渉チームを結成した。CMECの選択は入札ではなく、随意契約によるものである。(当館注：同発電所1～4号機は中国企業により建設されたが、不具合が頻発した結果、政府はIPPによる運営を目指し売却先を探していた。)

(11日：メヒ紙)

3) 40億プラを電力供給プロジェクトへ

鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障省は、40億プラを発電・送電事業へ投入する。ケボナン同省大臣は国会において、「6億プラをモルプレA発電所改修事業へ、16億プラを北西送電プロジェクトへ、8億1,400万プラをラコラの変電所の完成へ、4億4,300万プラをイサン・モルプレB発電所間400KV送電線事業へ、2億8百万プラを基幹送電インフラ強化へ、2億プラをザンビア・ボツワナ・ナミビア送電事業へそれぞれ投資する」旨発表した。

(15日：ガゼット紙)

4. Doing Business ランキング

世銀と世界金融公社が発表する「Doing Business 2017」の報告によると、ボツ

ワナは190カ国中71番目にビジネス環境の整った国としてランクされた。サブサハラアフリカ諸国内では、モーリシャスとルワンダに次ぐ第3位である。イムナゼ世銀ボツワナ事務所長はインタビューに対し、「ボツワナのビジネス環境は、過去数年間に亘り安定的かつ改善の方向に向かっているが、より早いスピードでの環境改善が期待される」旨述べた。

(7日：ウィークエンド・ポスト紙)

5. グローバル・エキスポの開催

23日、第11回グローバル・エキスポがハボロネにて開催された。多くの企業が参加する中、開会式にて、ブタレ投資通商産業副大臣は、「ボツワナは、市場主義経済国家として、今後も投資環境を整備していく」旨、ペラエロ・ボツワナ銀行総裁は、「現在ボツワナが抱えるビジネス課題に取り組むためには、関係組織及び事務的作業の効率化が必要である」旨それぞれ述べた。

(28日：デイリー・ニュース紙)

6. ボツワナは自動車部品製造に適している

27日、南ア・ヨハネスブルグで開催された南アフリカ日本商工会議所向けのボツワナ投資環境セミナーにおいて、セジョ・ボツワナ投資貿易センター(BITC)長は、ボツワナは南アに近いので南アの自動車メーカー向けの部品製造に適している旨訴えた。

(4日：ガーディアン紙)

7. 日本政府からの草の根無償資金協力

2日、日本政府草の根無償資金協力の署

名式において、日本大使館からヒュマナ・ピープル・トゥ・ピープルに対し20万プーラが供与された。同団体は、セレビ・ピクウェ地域において、孤児や弱い立場に置かれた子ども達を支援してきた。尾西大使はスピーチの中で、「同プロジェクトは、脆弱なコミュニティを対象に職業訓練を実施し、社会経済的開発を目指すものである」旨述べると共に、同団体のズル・ボツワナ事務所長は、日本大使館に対する感謝の意を述べた。

(3日、4日：デイリー・ニュース紙)

文化

ボツワナは日本の支援に感謝

8日に日本大使公邸で開催された「フレンズ・オブ・ジャパン」(日本から帰国したボツワナ人留学生の会)の懇談会において、モセサネ高等教育省副次官は、日本政府の奨学金支援に対して感謝する旨述べた。尾西大使は、日・ボツワナ外交関係樹立50周年という記念すべき年に本懇談会を主催することは大きな喜びであると語った。

(10日：デイリー・ニュース紙)